

埼玉県立
歴史と民俗の博物館

れきみん

前川建築の

すすめ

謝辞 本書制作にあたり、下記の方々をはじめ多くの方のご協力を賜りました。
厚くお礼申し上げます。(敬称略)

資料提供 : 株式会社前川建築設計事務所

写真提供 : アトリエR(畑亮)

村井修写真アーカイヴス(村井久美子)

吉村行雄写真事務所

作 画 : 新井 杏美(埼玉県芸術文化振興財団)
mei

埼玉県立歴史と民俗の博物館
前川建築のすすめ

発行日 令和3年11月3日

編集・発行 埼玉県立歴史と民俗の博物館

〒330-0803

埼玉県さいたま市大宮区高鼻町4-219

前川建築のすすめ

Contents

■ プロローグ	004
■ 当館建物の概要紹介	006
■ たたずまい	008
■ 建築素材の選定① タイル貼りの世界編	010
■ 建築素材の選定① 散りばめられたタイル編	012
■ 建築素材の選定② コンクリート編	013
■ 建築素材の選定③ 手すりのディテール編	014
■ 建築素材の選定④ インテリアのディテール編	016
■ エピローグ	018
■ 基本情報(現存する前川建築MAP・当館のご案内)	019

前川國男「設計者のことば」(抄)1971.9.1

「現代は悲しい時代である。新奇なものをつくることに憂身^{うきみ}をやつすばかりで、よりよいものをつくろうとしない。」と嘆いた詩人がありました。

現代は、「使い捨ての時代」であるといい、消費は美德であるとさえいわれます。このようにして「物」を粗末にする現代はやがて「物」にひそむ「人の心」を傷つけずにはいません。結果はみられるとおりの環境破壊と人心の荒廃であります。

われわれは経済の繁栄を謳歌して来ました。しかし西欧文明を輸入してこの方、所謂明治百年は美しい日本の破壊と人心退廃の歴史であったのではありませんか。これが日本人の百年の努力の成果だったと顧みて今更のように愕然とする次第ですが、もはやわれわれは好むと好まざるとにかかわらず、この近代文明と運命を俱にせねばなりませんまい。とすればわれわれに残された道はただひとつ、破壊に向うこの文明の進路是正に努力することでありましょう。どうしたら「日本の心」をもってこの文明の進路是正に寄与することが出来るでありましょうか。

「埼玉の生んだ物」にひそむ「日本の心」はどこにあるのかをさし示すところこの博物館のもつ意義であり、しかもそれが狭い地域社会の閉鎖的な枠をこえて「日本の埼玉」、「世界の埼玉」としての普遍性を勝ち得て行くことにこそ埼玉百年を記念して建築された県立博物館の存在意味があると申してよいと思います。

美しい大宮公園の環境にどのような博物館を建てたらよいのか。博物館のこの敷地に於ける「たたずまい」とその建築素材の選定にいささか心胆をくだいたつもりであります。

(以下略、ルビは追記)

出典:『埼玉県立博物館要覧』1971,埼玉県立博物館

れきみんの建物をめぐりながら
この言葉の意味を探りましょう。



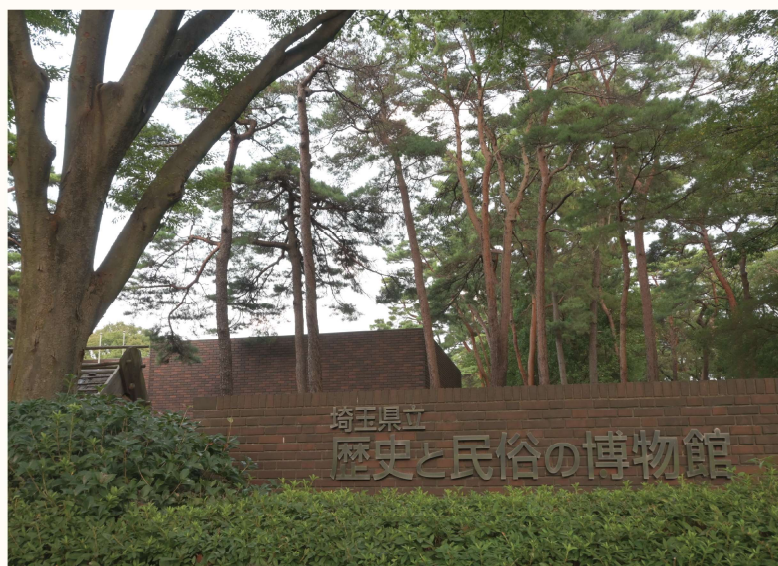
プロローグ



私の名前はエマ！
今日は、友達の藍に誘われて
大宮にある武蔵宮氷川神社まで
縁結び祈願に来ています！



藍から
遅れるって連絡来たし、
大宮公園の中を
散策してみようかなあ？



雨が降るなんて
天気予報で言ってた？！
傘、持ってきてないのに！
どこが雨宿りが
できやうなごうは…

「埼玉県立歴史と民俗の博物館」かあ。
うん、ここで少し
休ませてもらおうっと。

お困りですか??

建物と同じような柄の
スーツ着てるけど
博物館の制服なのかな。

それに…

ハンサム！

急な雨で！
少し雨宿り
させてください。



歴史と民俗の博物館



自然に溶け込む端正な素材の美とたたずまい、
それは流行に左右されないハンサムな建築

武蔵野の面影を残す大宮公園の一角。埼玉県政百年を記念し、埼玉百年の森とともに1971年に誕生した「埼玉県立博物館」。再編・統合を経て歴史、民俗、美術工芸資料を総合的に扱う「埼玉県立歴史と民俗の博物館」としてリニューアル。多くの資料を収集・保管・活用するほか、藍染めやまが玉づくり体験ができるなど、幅広い世代の学ぶ意欲に応えてきた。

設計は、多くの公共建築を手がけた前川國男。日本の近代建築の礎を築いた巨匠だ。前川は「この敷地に於けるたたずまいとその建築素材の選定にいささか心胆をくだいた」と述べた。その言葉どおり、建物の配置から素材選びまで、周囲の自然環境と調和するよう配慮が尽くされた。その一例、外壁の「打込みタイル」は、前川独自の工法で、その連続するさまは、さながら打込みタイルの「ショールーム」。50年経ても風格は増すばかりだ。

正門を入ると、壁の凹凸が連続して曲折する中庭の長いアプローチ動線。空間は時によどみ、あるいは止まり、また小刻みに律動し、訪れた人を否応なく樹々の中を散策へと誘う。



鉄製の窓枠、コンクリート製の十字柱に支えられて連なる大窓。その入り口を抜ければ、現場で打ち放したコンクリートの梁が見下ろすエントランスホールに、思わず居住まいを正す。床や壁のタイルは、中庭から内部まで連続と続く。内外の境界があったことに遅れて気づかされる。来訪者は、時折外光と風景に遭遇しながら、しばし「一筆書き」の空間をめぐる。手すりや赤がね色の吊り下げ照明、椅子、間仕切りに至るまで、一つとして手抜きがなく細部にも前川の魂が宿る。

絵空事でない建築技術に裏打ちされたデザインに、日本の気候風土に合わせた近代建築。前川の建築観の結実を、この博物館に見出させる。

ようこそ、れきみんへ。
私が施設をご案内します。
設計したのは前川國男、
日本の近代建築界を
リードした人です。





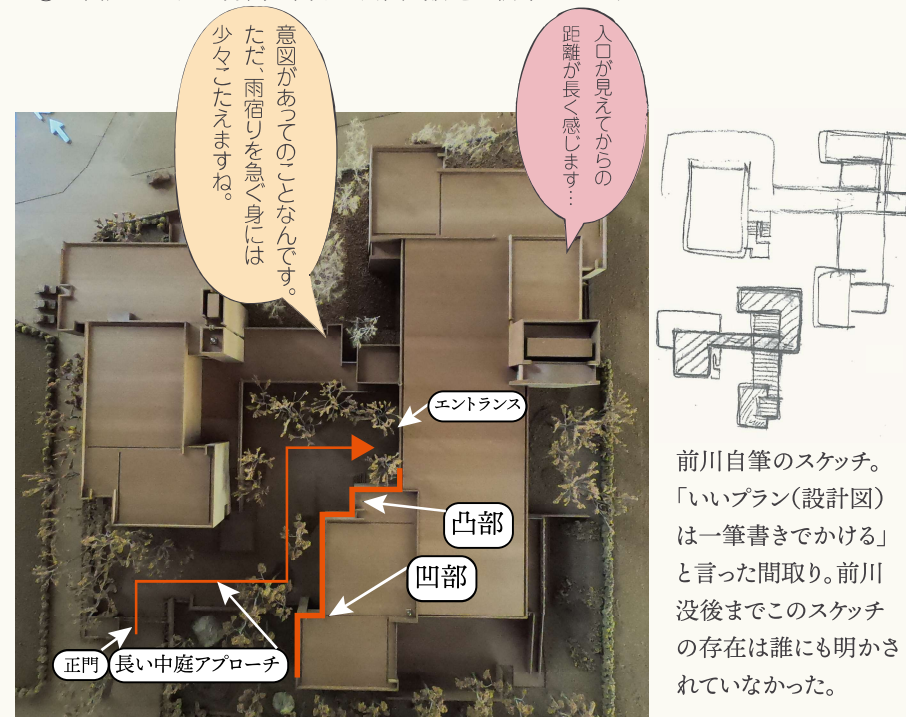
たたずまい

来訪者は正面性のない建物の内外を「一筆書き」でめぐり、外光や外部の風景を取り入れた間取りを散策する。「たたずまい」とは、環境と調和した建物の配置と、そこを去来する人間を中心とした空間といえる。それは前川が希求した日本に根ざす近代建築そのものである。

あえて目立たないよう
気を配ったんですね!!

建物を公園の自然に溶け込ませる7つの工夫が凝らされる。

- ①元からある松・桜・椎・^{なら}榎などの樹木を縫う建物の配置
- ②出来るだけ樹木を切らない
- ③建物の高さを樹木よりも低く抑えた
- ④外壁の色は、暗褐色で艶のない焼き物タイルを選んだ
- ⑤建物の内部から外部環境とつながるよう開口部を設けた
- ⑥やむを得ず木を伐採したところには樹木を植えた
- ⑦正面入口を池の方角に向けて公園と敷地の樹木をつなげた



建築模型を見ると、スケッチどおりに施工されたことがわかる。上から見ると壁が階段状に連続して雁行し、空間に「よどみ」が生じる。長い中庭のアプローチを入りヶやきの巨木が見えるや否や止まる。右に折れ、左に折れ、中々見えない入口に、今か今かと来訪者の期待感をふくらませる。建物に至るプロセスも味わってほしい、「人間中心の建築」への前川の思いが込められている。



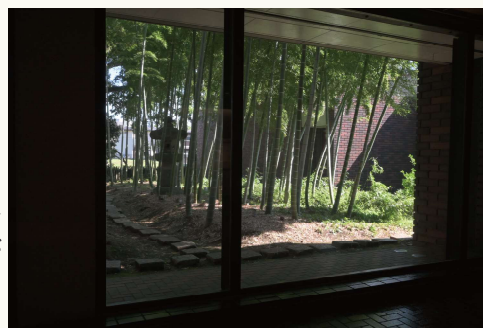
開館当初の写真です。懐かしいですね。

この吹抜けの周りをぐるりと巡る回廊に展示室があるんですね。

まさにそれが、一筆書きプランの心です。心地いい動線と言われます。

〔上〕展示室の一部を地下に埋め込み、建物の高さが低く抑えられている。高さ9.6mの「地階と1階をぶち抜くスケール」。埼玉を象徴するような展示物を置ける空間として作られた。

〔右〕季節展示室から見る竹林は室内にいながらにして外部空間や光を取り入れ、絵画のような風情を感じることができる。



一筆書きプランは、空間同士が重なり合い、閉鎖されない連続空間をつくる。

人の動きに合わせて光や外の風景を取り入れ、空間や場面が展開し心地よさを感じさせる空間づくりは「建築的プロムナード」とも呼ばれる。

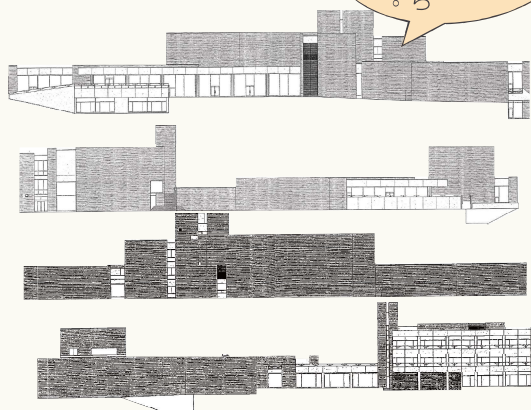
それは師匠であるフランスの建築家、ル・コルビュジェの影響を強く受けたものであった。

ル・コルビュジェは空間を垂直的、反時計周りのらせん状に展開させた。対する前川は、水平連続的な「よどみ」をつくることで、回廊庭園や書院造りなどの心に近い空間を展開させた。

前川は、師匠に学んだ近代建築を日本の風土に合わせて進化させたといえる。

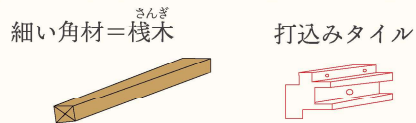
〔下〕様々な方角から見た立面図。角度により異なる姿形を見せる建物は「正面性がない」特徴を持つ。

どの方角から見ても表情が違います。ぜひ、外周からご覧ください。

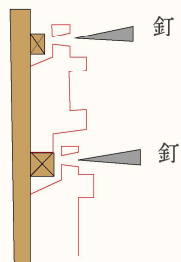


〔概略〕打込みタイル工法

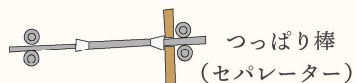
①型枠に角材とタイルを並べる。



②タイルを型枠とせんぎにクギ留めする。

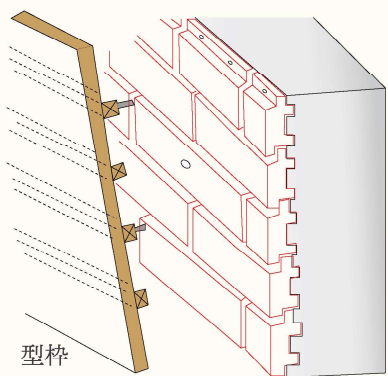


③型枠をつっぱり棒で留めておく。



④コンクリートを流し込む。

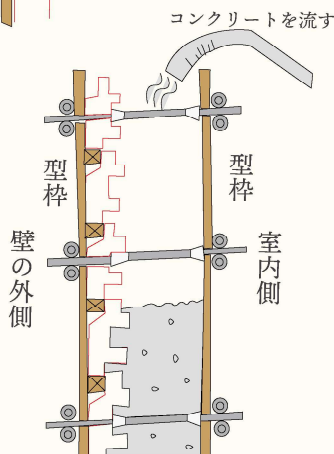
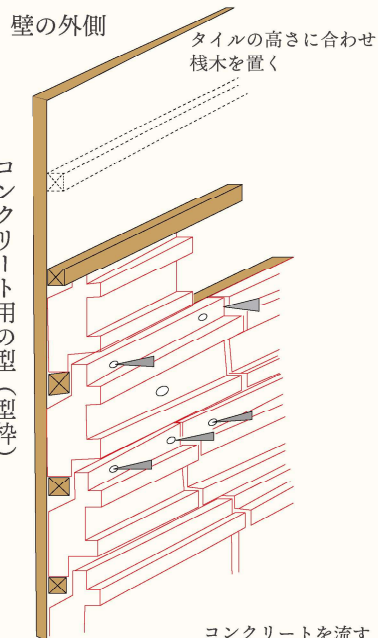
⑤固まって型枠を外したら完成！



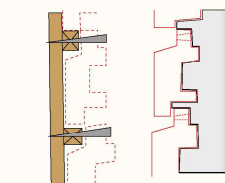
壁にべたべた後から貼っていくのがタイルのイメージでした。

「コンクリートと一緒に固めるので、重いタイルも剥がれないのです。」

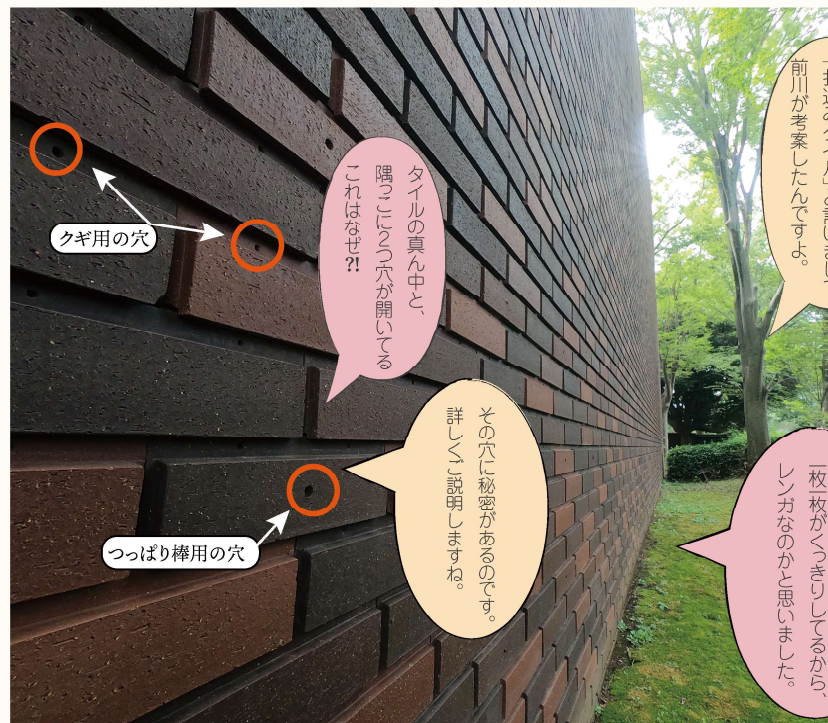
コンクリート用の型（型枠）



断面を拡大すると...



型枠といっしょにせんぎと釘が外れる



〔上〕打込みタイルは暗褐色で艶のない珪器質のタイル。重さが1枚当たり約3.8kg、外壁だけでも7.7万枚以上使用される。

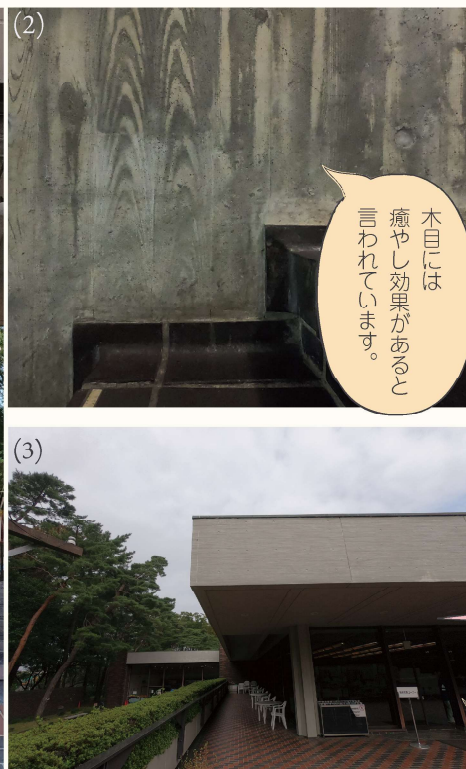
〔下〕床に敷き詰められた赤と黒の網代貼りタイルは、前川後期の作品で多く見られる。進路や動線をタイルの方向で誘導するよう工夫して貼られている。



建築素材の選定 ① タイル貼りの世界編

前川は1960年頃から「打込みタイル」を使い始める。主に大気汚染によるコンクリート劣化から保護する目的があった。加速する経済成長の陰に広がる環境汚染や使い捨て消費社会。それを見た前川がとった姿勢とは、長持ちする素材「土」に着目することであった。

(1)現場で打放された
コンクリートの梁は、
柱のない空間をつく
る。設計時、展示やレ
セプションにも対応で
きる「ガランドウ」のよ
うな空間とした。天井
の荷重を支えるだけ
でなく、洗練されたデ
ザインがほど良い緊
張感を生む。



(4)上から下にかけて形が十字形から八角形に変化していくコンクリート柱。十字形はコンクリートの天井を支え、八角形は接地面を広くする役割がある。デザインを追うばかりで、建築技術が未成熟だった1950年代、建築技術の向上なくして本物の建築なしと言った、前川の精神(テクニカル・アプローチ)がひっそりたたずむ。

(2)コンクリートを固める(打設する)ときに使う型枠の木目が転写された打放しコンクリートの壁は、技術とデザインがさりげなく両立する。

(3)厚みのある打放しコンクリートの底。木目が水平方向に転写されている。

深いひさしのテラスは開放感があって居心地いいですね。
柱だけで支えているように見えるこのつくり、ピロティと呼びます。



建築素材の選定② コンクリート編

1950〜60年初め、前川は打放しコンクリートの建築を多く残していた。タイル貼りの建築へと作風が変遷して以降も、従前のコンクリート素材の表現は建物内部で追求し続けた。

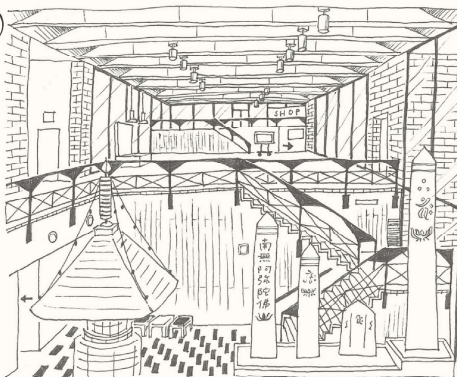


(1)特殊な形状に曲げ加工した役物
タイルの面がきれいにそろっている。

(2)床、外壁のタイルが建物の内外に貼り巡るさまを一望できる吹抜。



(4)窓枠に納まるタイルはまぐさ曲がりと呼ばれる。



(3)床と壁をつなぐ幅木にもタイルが納まる。



建築素材の選定① 散りばめられたタイル編

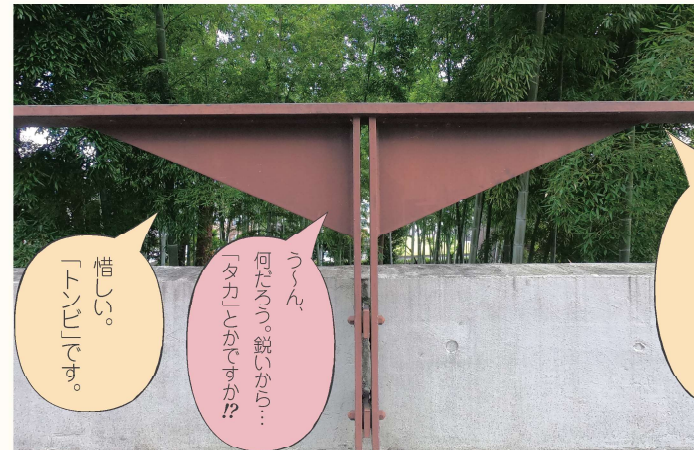
ガラス、鉄、コンクリートなど、近代建築を形づくる素材は、年月の経過とともに風化することが避けられない。前川は、石やレンガは素材の美しさや価値を持ち続けると考えるようになった。後期の建築では隅々にまでタイルが貼り巡らされている。



建築素材の選定③

手すりのディテール編

前川の「手すり」も建物の重要な構成要素といった考えは、建物や設置場所によって素材、形状、寸法を変えた点に表れる。後期の作品では、手すりを鉄製のシンプルな形状とした。



この手すり、
ある鳥に例えて
名前がついています。
何だと思われませんか??

うん、
何だろう。鋭いから…
「タカ」とがですか!?

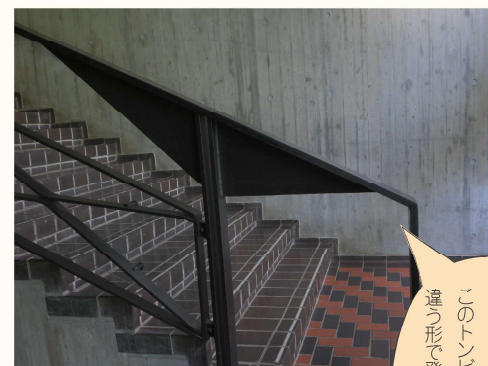
惜し。
「ムネ」だ。

〔上〕風雨に強い耐候性鋼の手すり、通称トンビと前川は呼んだ。屋外の場合は雨で表面が錆びて赤茶ける。錆自体が保護膜になり中まで錆びないよう特殊な加工が施される。

〔右〕トンビとコンクリートの接合部はすっきりと目立たないように処理されている。



あ階段のトンビ、
三角の形が違っ!!



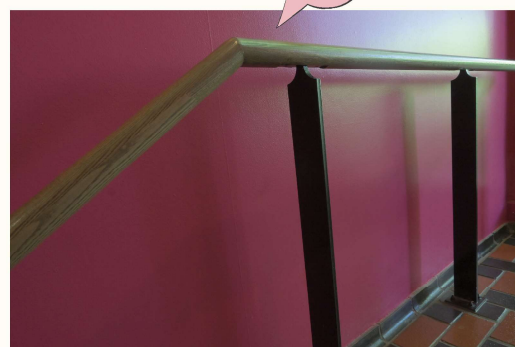
手すりも場所によって
大きさを変えています。
このトンビ、他の前川建築では
違う形で登場します。



手触りのよい太い手すりは紫檀材。壁や鉄製の支柱との接合部はすっきりとしたデザインで、手をかけても触れることがない。壁面の色によって、手すりの色や質感が異なる。

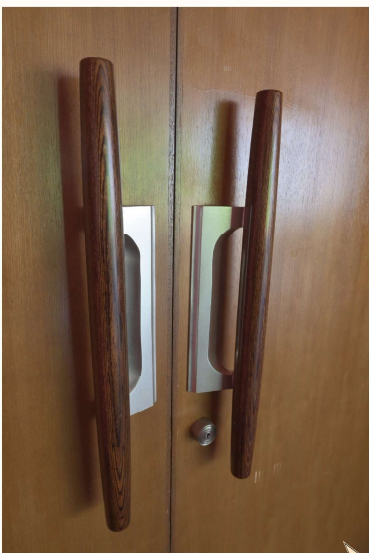
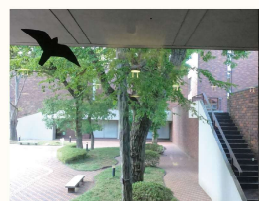


うっちは
上げ茶色だ!
うっちは
ナチシルフン!!



手すりと鉄製の支柱の接合部がすっきりとした印象に。

〔コラム〕大窓(連続水平窓)のトンビ?!
お客様から「エントランスホールの窓に貼られた鳥はなんですか。」と聞かれることがあります。実はこれも手すりの通称と同じトンビ...と紹介したかったのですが、こちらはタカのシルエット。バードセーバーと呼ばれるシールです。野鳥が窓に衝突してしまうのを防ぐ目的で貼っています。森に囲まれ、建物が自然に溶け込む当館ならではの対策といえるかもしれません。
(右側はバードセーバーのパッケージ(生産終了品))



手に馴染むよう緩やかなつぼ型状になった手すり。

使う人のことを
考えた手すりだと
思います。

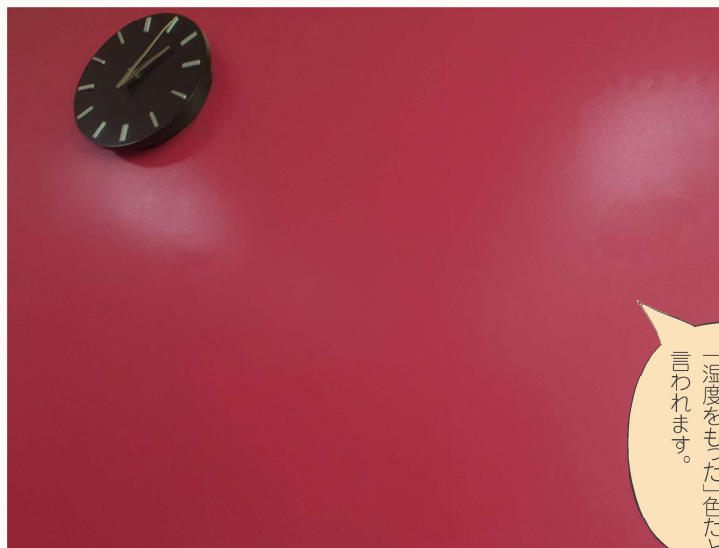


ガラス扉の手すりは質感が屋内(上)と屋外(下)で異なる。



建築素材の選定④

インテリアのディテール編



〔左〕鮮やかなピンクにも見える壁面は、前川曰く「元気になる赤」。前川の建物では、様々な差し色が使われている。色見本をつかわず「成層圏ブルー」や「カチカチ」のタヌキのやけど色」など独特な表現で「前川カラー」の指示を出していた。

前川の色づかいは鮮やかな中にも「湿度をもった」色だと言われます。



〔下〕滑らかに一体成型されたクリーム色の背もたれ付きイスは、前川建築の中でも珍しい強化繊維プラスチック(FRP)製。座面はビニールレザー製。中央のテーブルは、座面を置くとイスにもなる。

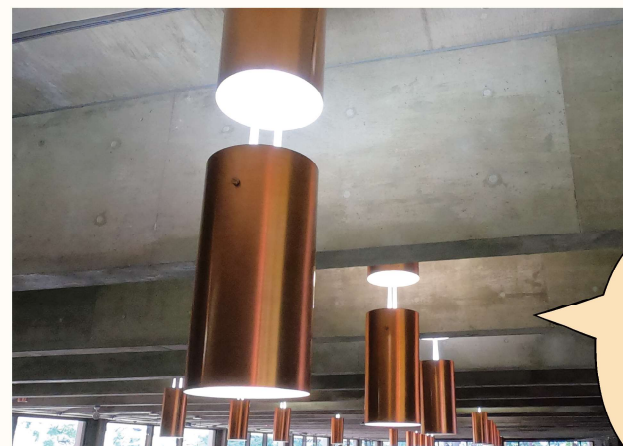


〔上・左〕講堂前にかけられた真ちゅう製の板を鎖でつないだ間仕切りは、前川のホール建築に多く見られる。ゆるやかに空間をつなぐことで、開場を待つ客の期待感をふくらませる効果がある。開け閉めするときのシャラシャラ音が心地いい。



長持ちする素材の組み合わせに、先見の明を感じます。

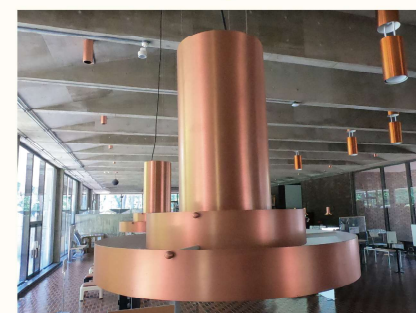
座り心地いい！人をタヌにするソファかもしれない…



前川が「竹筒をつなげた」ような形と言った赤がね色の吊り下げ照明。

シンプルながらも、流行に左右されないデザインでしよう。

カウンター上の吊り下げ照明は改修時のチケットカウンター増設に伴い設置された。筒が段状に重なる。



展示棟の室名表示は起筆が力強い明朝体。「前川|フォント」とも呼ばれる。ステンレス製の切抜き文字に金属粒子を吹付けシボ加工されたもの。



文字のパーツ同士がつながっていて、なんだか愛らしい♡

前川フォントの室名表示は建物内外に5か所ぜひ探してみては。



管理棟内は、丸ゴシック体で統一されている。他の前川建築でも見られる。

前川の魂が細部に宿るインテリアなどの仕器のデザインは、前川の下で中川卓子氏(なかが たけこ)が全般を手がけた。前川建築の中でも、その建物ならではのものや、共通デザインの仕器もある。見比べても楽しい。

※は前川没後(1987～)の作品を指す

岡山県庁舎本館(1957)
岡山県庁西館(71)・南館(72)
岡山県庁別館(80)・東棟(91)
岡山県天神山文化プラザ(1962)
林原美術館(1963)

福岡市美術館(1979)

【佐賀県】
名護屋城博物館(1993)※

熊本県立美術館(1977)
熊本県立劇場(1982)

新潟市美術館(1985)
長岡ロングライフセンター(1980)

京都会館(1960)

日本万博鉄鋼館(1970)

神奈川県立図書館・音楽堂(1954)
神奈川県青少年センター(1962)
神奈川県婦人会館(1965)
横浜市中区役所(1983)
横浜中央図書館(1993)※

藤枝市立図書館(1979)

山梨県立美術館(1978)

石垣市民会館(1986)

真駒内スピードスケート競技場(1970)

弘前市役所本館(1958)・新館(72)・新庁舎(2016)※
弘前市民会館(1964)
弘前市民病院(1971)
弘前市立博物館(1976)
弘前市みどりの相談所(1980)
弘前市畜場(1983)

宮城県立美術館(1981)

福島県教育会館(1956)
白河市歴史民俗資料館(1979)
白河市文化センター(1977)

栃木総合文化センター(1991)※

埼玉会館(1966)
埼玉県立歴史と民俗の博物館(1971)
埼玉県立自然の博物館(1981)
埼玉県児玉町文化会館(1995)※

千葉県東総文化会館(1991)※

世田谷区民会館・区庁舎(1959)
第2庁舎(1969)
世田谷区立郷土資料館(1964)
東京文化会館(1961)
国立国会図書館(1961)・新館(1986)
東京都美術館(1975)
国立西洋美術館新館(1979)

基本情報

ほかの前川建築も
気になってきちゃった！

建築？ 難しそ……
埼玉会館なら近い
行つてもいいけど……

私が教えてあ
大丈夫だよ

前川建築を
お気に召していただき
嬉しいです。
またいらして下さいね。

ご案内は以上です。
雨、上がりましたね

ありがとう
うございました
…うて、あれ？
ハンサムさん
がない…

エマ、お待ちせ！

ハンスムな男の人
いたよね!?

いなかっただけと……

い、今の声は!?
藍も聞こえた!?

声なんて
聞けないよう

そ、それじゃあ……
あの人って……



エ
ピ
ロ
ー
グ

交通アクセス

電車 大宮駅から東武アーバンパークライン
(野田線)で2駅
「大宮公園駅」下車 徒歩5分

車 駐車台数(18台駐車可)に限りがあります。
公共交通機関の利用にご協力下さい。

〒330-0803

埼玉県さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地

TEL 048-641-0890 (代表)

URL <https://saitama-rekimin.spec.ed.jp/>

